

名古屋アイリスロータリークラブ

RID2760 THE ROTARY CLUB OB NAGOYA IRIS
人類に奉仕するロータリー ROTARY SERVING HUMANITY
2016-17 年度 国際ロータリー会長 ジョンF. ジャーム

例会日:毎週水曜日 13:00~14:00

例会場:ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋

創立:2013 年 6 月 5 日

会長:櫻井 孝充 「信頼に基く寛容と選択」



■ 斉唱 君が代 奉仕の理想

■ 司会 生田 瀬津子 会員

■ 出席者報告 出席者数 28 名 / 会員数 37 名
出席率 75.68%

前々回(第 171 回)修正出席率は 78.37%(29/37)

■ ゲスト

パストガバナー 田嶋好博 様

特別代表 浦野 三男 様

名誉会員 水野吉紹様

東名古屋分区幹事 朝倉淳一様

■ 誕生日

3月2日 沖 知也会員

3月3日 岩崎 幸弘会員

3月5日 三木 庸行会員

3月17日 竹内 祐子会員

■ ニコボックス報告

田嶋好博 様

スピーカーが急病の為、卓話をする事になりました。

浦野三男 様

本日お世話になります

だんだん陽気が良くなっています

年度最終の4ヶ月を頑張りましょう

水野吉紹 様

今日も宜しく願い申し上げます

櫻井 孝充 会長

浦野三男特別代表、水野吉紹名誉会員、田嶋好博名誉会員、朝倉淳一様ようこそアイリスロータリークラブにお越し下さりありがとうございます。ヤヨイ3

月に入りやっと2017年、平成29年度に入ろうとしております。皆様、気候が春めいてまいりましたが、気を緩めず、3月を乗り切ってください。感謝。

菊地 富士子 幹事

田嶋パストガバナーお誕生日おめでとうございます。

浦野三男特別代表、水野吉紹名誉会員、朝倉様、本日はお越しいたきありがとうございます。お誕生日の卓話をこころよくお引き受け下さり感謝です。

安井直前 会長

本日もいい天気になりました。いつも北ロータリークラブの浦野様、田嶋様、水野様そして朝倉様にはアイリスロータリークラブにて大変御協力、御心配をおかけして申し訳ありません。

三木庸行 会員

当年(10年)にとって75才の誕生日を迎えました。

荒山久美 会員

田嶋先生、本日はピンチヒッター卓話よろしくお願ひします。

沖知也 会員

明日誕生日です。43才になります。今後ともよろしくお願ひします。

岩崎幸弘 会員

3月3日で59才、アラカン突入です。

ニコボックス合計 18,000円

■ 櫻井会長挨拶

こんにちはアイリスロータリアンのみなさん。



尾張大国霊神社、とは、すなわち、国府宮神社の事でございます。

実は皆さんもご存じの事と思いますが、小生の住む街、小生が生業とさせていただいている所であります。

稲沢市は日本でも3本の指に入るほど植木生産が盛んでございます。

それには理由があります。植木に適した、大地は植壤土、そして木曾川水系からの豊富な水の供給がある為、発達発展が自然に繰り広げられたかと考察します。

我が郷土では旧暦の1月13日に1200年以上続いております、はだか祭りという奇祭が今日まで続いております。それが終わりますと、この濃尾平野にも益々の春の訪れが色濃く成って行きます。

実はこのはだか祭、奇祭と言われますが、皆さんに本日お伝えしたいのは、このはだか祭の神事もさる事ながら、このはだか祭りは、翌日深夜3時から行われる、夜な

おい神事、と言われております催しがあるのです。

詳しい事はここでは述べませんが、皆様1つ、早朝というより夜中に頑張ってこの夜なおい神事を見ていただけるなら一層の「なるほどそうだったんですね！」と、納得していただける光景をご覧いただけるかと思います。

是非来年のその期には我が郷土の稲沢国府宮神社にお越し下さいます様お待ち申し上げます。

さて本日は以前からお願いしておりました卓話者をご都合悪くなられた為、急遽、田嶋好博名誉会員に卓話を賜る事に成りました。

さて苫屋ではありますが、我が家の屋敷内に植わる樹木達が、春の花を咲かせてくれています。

そして昨日は鶯の初鳴きも早朝聴かせてくれました。

何か素敵な1日が過ごせそうな、早朝から心豊かにしてくれました。

そうだ！我事ですみませんが、今日は入院している心の友を、庭に咲く朝切り水仙の花を共にお見舞いしようと、思う小生でした。

では田嶋好博名誉会員、素敵な卓話をお願いいたします。

感謝。

■幹事報告

菊地幹事より、3月の例会日程及び例会内容の報告がありました。

■本日の卓話

パストガバナー 田嶋好博様より俳句の卓話

俳句は民族詩で、その特徴は誰でも作れ、大衆性、一般性があり、同時に小説、詩、和歌と比べても文芸性として見劣りがしない近代文芸である。室町時代に流行した連歌の遊戯性、庶民性を高めた文芸が俳諧であったが17世紀に松尾芭蕉が出てその芸術性を高め、なかでも単独でも鑑賞に堪える自立性の高い発句、すなわち地発句を数多く詠んだ事が後世の俳句の源流となる。

明治になり、正岡子規がさらに近代文芸として個人の創作性を重視して俳句を成立させた。子規は江戸末期の俳諧を月並俳諧と批判して近代化した文芸たらしめるための文学運動を行い、発句が俳句として自立した。



現在では、俳句という最短詩型のはらむ可能性が、さまざまな立場や切り口からさぐられている。伝統と前衛、個と社会、諷詠と造形、詩と生活など、俳壇の動向は一言で尽くし難い。

以上